主日礼拝

2024年1月14日（日）

題 「最初の弟子たち」

テキスト：ヨハネによる福音書1章35～51節

皆さん、おはようございます。

ご存知のように今週火曜日17日には、あの1995年1月17日に起こった阪神・淡路大震災から28年を迎えます。三ノ宮の東遊園地で追悼集会が守られるようです。兵庫教区でも記念の日追悼礼拝が兵庫教区・クリスチャン・センターで開催されます。淡路島も大きな揺れ、また様々な被害がありました。

今年は新年に起こった能登半島地震と津波による大きな被害を受けられた方々がいます。この時、両方の地震で逝去された方々やご家族の上に、悲しみ苦しみを背負生きて来られた方々、今、苦難のどん底を生きておられる方々の上に、神さまの慰めと平安を心からお祈りいたします。

さて、今日の聖書の個所はイエスの最初の弟子となった人たちが出て来ています。

◆最初の弟子たち

35:その翌日、また、ヨハネは二人の弟子と一緒にいた。

36:そして、見つめて、「見よ、神の小羊だ」と言った。

37:二人の弟子はそれを聞いて、イエスに従った。

イエスが救い主として表れることを人々に告げた、バプテスマのヨハネにも弟子たちがいたようです。35節「ヨハネは二人の弟子と一緒にいた。」ヨハネはイエスを見つめて「見よ、神の小羊だ」と告げました。するとヨハネの弟子たちは、「イエスに従った。」のです。これは時代がバプテスマのヨハネからイエスにつながり、かつ変化して行くことを表しているかのようです。

事実歴史的にも、ヨハネの弟子たちはヨハネを離れてイエスの弟子となって行った人たちがかなりいたようです。しかし、このヨハネの立派な所は自分の弟子たちが良しとする心を持っていたということです。ヨハネは人間誰しも、人々の群れの中で、自分の発言力や影響力が弱くなって行くのは寂しいものではないかと思えます。しかし、ヨハネは自分の弟子たちが自分ではなく、イエスに従うことを良しとしたのです。

38:イエスは振り返り、彼らが従って来るのを見て、「何を求めているのか」と言われた。彼らが、「ラビ——『先生』という意味——ど

ここに泊まっておられるのですか」と言うと、

イエスはヨハネの元から自分の方に来た人たちに、まず「何を求めているのか」と言われたのです。イエスは人の心を、自分についてくる人の本心をご覧になるのです。「何を求めているのか」と。時を超えて今も、問うておられるのではないだろうか、と思わされました。わたしたち一人一人がイエスから問いかけられているのです。そして自分の所に来た人たちを招かれました。

40:ヨハネの言葉を聞いて、イエスに従った二人のうちの一人は、シモン・ペトロの兄弟アンデレであった。

マルコによる福音書によれば、イエスの選ばれた最初の弟子はシモン・ペトロでしたが、ここではイエスに従った二人のうちの一人は、シモン・ペトロの兄弟アンデレであった。アンデレが目立っています。ヨハネによる福音書6章に記されている、イエスがお腹の空いた人々5000人に、食事を与えるという奇跡の場面でもアンデレは良い働きをしています。

イエスに出会ったアンデレは、兄弟ペトロに伝え、ペトロをイエスの所まで連れて行ったのです。弟子たちの中ではペトロが指導的働きをしましたが、アンデレの働きも決して忘れてはならないものがあるように思います。

42:そして、シモンをイエスのところに連れて行った。イエスは彼を見つめて、「あなたはヨハネの子シモンであるが、ケファ——『岩』という意味——と呼ぶことにする」と言われた。

イエスに出会った最初の弟子、アンデレとペトロの姿です。

次にイエスに出会い弟子になった人たちは、フィリポとナタナエルという人物でした。 ◆フィリポとナタナエル、弟子となる

43:その翌日、イエスは、ガリラヤへ行こうとしたときに、フィリポに出会って、「わたしに従いなさい」と言われた。

イエスはフィリポを招かれました。

44:フィリポは、アンデレとペトロの町、ベトサイダの出身であった。

フィリポはナタナエルに出会ってイエスのことを伝えたのです。

こうして見るとイエスに招かれた者たちが、次々にイエスの元に、人を連れて行ったことが分かります。わたしたちも機会を見つけて、人をイエスの所、教会に招きたいものです。

45:フィリポはナタナエルに出会って言った。「わたしたちは、モーセが律法に記し、預言者たちも書いている方に出会った。それはナザレの人で、ヨセフの子イエスだ。」

ナタナエルはなかなか一筋縄では行かない人物だったようです。

46:するとナタナエルが、「ナザレから何か良いものが出るだろうか」

と言ったので、フィリポは、「来て、見なさい」と言った。

彼つまりナタナエルはイエスが育った地ナザレを軽蔑する気持ちを持っていたようです。今日で言えば、土地に対する偏見のようなものです。「ナザレから何か良いものが出るだろうか」と言っています。

これに対するイエスの態度はさすがだと思います。

47:イエスは、**ナタナエル**が御自分の方へ来るのを見て、彼のことをこう言われた。「見なさい。まことのイスラエル人だ。この人には偽りが無い。」イエスはナタナエルのことを「まことのイスラエル人だ。」と認められたのです。つまり、神の前に表裏がない、神の前にまっすぐな人だと。そして、

48:ナタナエルが、「どうしてわたしを知っておられるのですか」と言うのと、イエスは答えて、「わたしは、あなたがフィリポから話しかけられる前に、いちじくの木の下にいるのを見た」と言われた。

いちじくの木は、神の民イスラエルのシンボルです。イエスはすでにナタナエルを知っておられたのです。そのことにナタナエルは圧倒されたのです。

49:ナタナエルは答えた。「ラビ、あなたは神の子です。あなたはイスラエルの王です。」ラビとは「先生」という意味です。イエス元にはいろんなタイプの人たちが集まって来たのです。これは今日の教会でもそうだと思います。そして、イエスはナタナエルに、

50:イエスは答えて言われた。「いちじくの木の下にあなたがいるのを見たと言ったので、信じるのか。もっと偉大なことをあなたは見ることになる。」ちなみにナタナエルの意味は、「神が与える」という意味です。生粋のイスラエル人のナタナエルには、旧約聖書のイスラエルの出発の人物とされるヤコブの古事によって説得されたのです。

51:更に言われた。「はっきり言うておく。天が開け、神の天使たちが人の子の上に昇り降りするのを、あなたがたは見ることになる。」

この場面は、ヤコブが旅の途中疲れ果てて、石を枕に寝入った時に見た夢（創世記に記述されています。）を表していると思われます。天からの梯子で天使たちが上り下りしていたのです。これからはイエスを神の子と信じることによって、神への、天国への道が確かに開かれたということです。神の子イエスの出現によって新しい時代が始まったということです。それは今も続いているのです。わたしたちも、その道、天への道を生かされ生きているのです。

皆さまの上に、主の平安を祈ります。